

## ポスト B R I C s の一角として注目されるバングラデシュ

～人口の大幅な増加が経済成長のマイナス要因に～

2006年 7 月26日 (水)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: postbrics@yahoo.co.jp

### ～要 旨～

独立当初のバングラデシュは、政情が不安定なうえ基本的なインフラも不足していたことから、経済は停滞色を強め、貧困などの問題が深刻化した。1975年にクーデターが発生して以降、1990年までは軍事政権の支配下に置かれた。90年以降、民主主義が浸透するようになると、徐々にインドやパキスタンなど近隣諸国との貿易も盛んになり、それに伴い経済成長率が高まるようになった。近隣のインドやパキスタン経済が高成長を続けているため、その恩恵を受けているという側面もある。2005年は、サイクロンや洪水など自然災害の影響があったなかでも、前年比+5.8%の成長を達成した。

バングラデシュの主要な産業は農業と繊維産業である。農業生産では米、ジャウト、さとうきびなどが主要産物となっている。農業がGDPに占めるウエイトは20%と高く、天候要因によって経済成長が大きく左右される傾向がある。バングラデシュは石炭や天然ガスなどの天然資源にも恵まれている。とくに天然ガスが豊富で、発見されている埋蔵量だけでも4400億立方メートルに達する。

海外からの直接投資も増加傾向にあり、最近ではインドのタタ財閥が、バングラデシュに製鉄所や発電所、化学薬品工場を建設するなど巨額の投資を行う方針を発表した。バングラデシュは基本的に外資の出資制限を設けていないため、外国企業が進出しやすい状況となっている。

バングラデシュ経済が抱える大きな問題のひとつは、貧困層の増加である。バングラデシュでは人口が毎年+2%近くのハイスピードで増加している。2005年の総人口は約1億4000万人であるが、2028年には2億人を突破する見通しだ。B R I C sにおいては、人口の増加は労働力の供給源となり、経済にとってプラスの要因として働いているが、バングラデシュはマクロ経済の基盤が脆弱であるため、人口の増加が貧困層の増加を招く結果となっている。バングラデシュの1人あたりGDPは2005年でわずか402.8ドルと日本の100分の1にすぎない。人口爆発を抑制しながら、マクロ経済のファンダメンタルズを強化することが政府にとっての喫緊の課題となっている。